

# 安心の医療を山武地域に！

## 『山武地域医療センター』

私たちの住む山武地域の医療水準を向上させ、いざというときでも安心して診てもらえる医療提供体制をつくろうと、「山武地域医療センター」の計画づくりが進んでいます。

山武地域で一般的な医療を完結させ、併せて24時間の救急医療体制を整え、医療過疎の状態を改善することが、医療センターの目的です。入院患者の約2分の1が、また外来患者の約4分の1が、山武地域外の医療機関に出ています。一方、救急では、域外への搬送が年々増加し、現在では約3分の1を占め、病院への到着が長い時間かかってしまう状況です。山武地域医療センターは、公立病院の再編と中央病院の新設により機能分担を図り、人材や医療機器など医療資源を集中するとともに、医師の確保対策や経営の効率化をめざしています。

●2月18日、東金文化会館で、「山武地域医療センターシンポジウム」が開催さ

れました。主な質疑と回答は次のとおりです。

**問** 中央病院予定地が東金市内に決定された経過は。

**答**

4市町から提案された5か所について、①交通アクセス、②インフラの整備状況、③用地取得の容易性、④土地の価格などを総合的に評価した結果をもとに、市町村長の協議で考え方を集約し、平成17年8月

3日開催の策定委員会で協議の結果、東金市丘山台の用地を予定地とすることとなりました。

**問** 成東病院の現在の機能や規模が縮小される点について不安を感じる。

**答**

現在の医療提供体制は、救急医療や小児医療など住民の望む医療が実現できないだけでなく、医師の確保が難しく医療資源も分散しています。

成東病院は支援病院として位置づけられますが、外来診療科は現行がほぼ維持されます。病床は、急性期を担う中央病院と機能分担するため、療養型（慢性期の疾病治療）に変更される計画です。しかし、救急や小児医療に比べられる中央病院ができることにより、山武地域全体では、医療提

供体制が充実し、大きなメリットがあると考えます。収支は見合うのか。また、県の支援、住民負担はどうなるか。

長期にわたり健全経営が可能となる運営を目指すため、PFIなどの民間活力を導入し、収支均衡をめざしています。また、県立東金病院の老朽化を契機とした事業であり、県か

らは必要な支援を行う旨、回答を得ています。財政負担のより少ない事業手法の検討と、県の財政支援を求めるなかで、市町村負担が明確にされると考えます。

※問い合わせ

### 新任医師が着任

東陽病院では、毎年4月に医師の定期人事異動が行われます。今年も一人の医師が着任しました。

なお、佐野隆久医師、押田恵子医師は退職されました。



着任/外科  
**古川 健 医師** (平成13年卒)  
(前勤務先 長野県軽井沢病院)

4月から外科に勤務することになりました古川です。地域の皆様に信頼していただけるよう、頑張りますのでよろしくお願いたします。

